# 第４次佐倉市総合計画　総合計画審議会（第２回）　要録

<table>
<tr><td>日 時</td><td colspan="2">平成 22 年 4 月 23 日（金）14 時～16 時 00 分</td><td>場 所</td><td>1 号館 3 階会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出席者</td><td colspan="4">審議会委員：亀山委員、熊本委員、坂口委員（副委員長）、鈴木委員（委員長）、田中委員、津留崎委員、西村委員、原委員、平川委員、松崎委員（五十音順）</td></tr>
<tr><td>事　務　局</td><td colspan="3">小柳企画政策部長<br>企画政策課　小島課長、橋口副主幹、舎人主査、呉屋主任主事　他 3 名</td></tr>
</table>

| 発　信 | 内　　容 |
|---|---|
| 事務局 | **（１）第 3 次佐倉市総合計画における総括について**<br>＜説明＞<br>・9 月議会に基本構想案上程の予定。現在、基本構想基本計画の策定作業中。<br>・現在進捗中の第 3 次総合計画の総括が必要である。22 年度が第 3 次総合計画の最終年度であり、第 4 次総合計画策定に役立てるため現在、総括することとした。<br><br>（資料７　総括レポート）<br>（3 頁）総合計画のあゆみ<br>第 1 次総合計画、第 2 次総合計画、第 3 次総合計画の期間とテーマ、章立ての説明。<br>（5 頁）第 3 次総合計画の 10 年間のあゆみ（平成 13～22 年）を数値比較。<br>高齢化、地域経済の衰え等が特徴である。<br>（7 頁）10 年間のあゆみ：佐倉市 10 大ニュースから<br>勝田台・長熊線が進展してきている状況にある。<br>（12 頁）総括シート　第 3 次計画 10 年間を総括する。<br>基本計画は前期・後期各 5 年間で設定されているが、後期計画は前期計画を踏襲しているため、総括では主に後期基本計画を振り返ることとする。<br>（14 頁）第 3 次総合計画の各 6 章を振り返る。<br>・1 章：健康福祉。<br>課題は医療機関との連携、地域包括支援センターによる切れ目ない高齢者福祉サービス、ボランティア団体への支援。<br>・2 章：環境<br>自然環境の保全（印旛沼・谷津）、不法投棄監視制度、地域防災計画に基づいた整備。<br>・3 章：教育・文化<br>学校教育、地域との連携、学校の耐震化。社会教育、文化的資産の活用。人権、各種講座の提供。<br>・4 章：産業経済<br>商業：農地の有効活用、企業誘致、観光商業地の形成、各種産業の振興。雇用の確保。<br>観光：市民花火大会の復活、日蘭交流 400 年記念事業等イベント実施。<br>課題は新規農業者の増加する施策、産業振興ビジョンの策定にもとづく産業振興、回遊性をもたせる観光、フィルムコミッション等。<br>・5 章：都市基盤<br>都市基盤：Ｉ-32 号線開通、勝田台・長熊線の最終合意書締結、（仮称）西部自然公園の整備等。<br>課題は、公設各施設の維持管理経費と長寿命化。<br>・6 章：行財政運営、市民参画<br>人件費削減、行革、より一層の事務の効率化が必要。ファシリティマネジメントによる公の施設評価、管理。 |

| | |
|---|---|
| | 課題は、市民協働条例の制定。NPO 団体の連携。<br>（26 頁）市民満足度調査からみる達成状況；取りまとめ中、夏頃公表予定。<br>（27 頁）全体のまとめ<br>①当初からしっかりした議論が必要②限られた資源の有効、事業の選択③地域力の向上。<br><br>質疑 |
| 委員 | 6 頁の「犯罪発生件数」は佐倉市のものか、佐倉警察署管内のものか。 |
| 事務局 | 佐倉警察署管内のものである。 |
| 委員 | 総括についてであるが、総合計画は 10 年と長期にわたるため、数量化するのは難しいのではないか。介護保険計画などは 3～5 年ごとのローリングで数字目標を決めていた。有用な個別計画の数値データはたくさん存在するので、総括レポートにそれを反映してはどうか。 |
| 事務局 | 総括の単位は基本施策である。確かに、基本施策の単位では数量化がなじまない施策目的のものもあるが、極力、数値化していく。基本施策にぶらさがる実施計画については、個別計画の数字データを利用する（資料 8、5 頁）。どの指標に個別計画がぶらさがっているか、わかるように努める。 |
| 委員 | 佐倉市の 22 年 4 月 15 日現在の人口は 17 万 5 千人強。千代田、志津地区では増加しているが、あとの地区では減少傾向にある。その状況下で、外国人居住者は将来を見据えても多大な影響がある。総合計画には、外国人も住みやすいまちづくりについてはうたっていないのではないか。 |
| 事務局 | 現在は外国人に特定した表現を用いる予定はないが、市の課題として大きくクローズアップされれば明記することもある。現在は市の課題として特筆するほどには、大きな問題には至っていないと認識している。現在、佐倉市に 2,500 人前後の外国人登録者がいる。彼らを佐倉市民としてとらえるなら、英語表記等、住みよくなる対策をとる必要がある。 |
| 委員長 | 外国人居住者の人数や要望など現状の把握を、市でやっていたと記憶している。施策に加味できるよう、事務局で対応してもらえればよい。 |
| 委員 | 19 頁総括レポートの末尾に、外国人市民に対する日本語講座、外国語版広報紙等の進捗が報告されている。今後も市がこのような外国人向けの事業を進めていただけると考える。 |
| 委員長 | 総括レポートについては、今の意見などを参考にして、事務局で整理していただきたい。 |
| | **（２）第 4 次佐倉市総合計画策定について**<br>＜説明＞<br>①第 4 次佐倉市総合計画の策定にあたって＜資料 8＞ |
| 事務局 | ・平成 23 年度から計画期間が始まる。<br>・構成：第３次総合計画は３層構造（基本構想、基本計画、実施計画）<br>・計画期間：第１次総合計画 10 年、第２次総合計画 17 年、第３次総合計画 10 年。<br>基本計画については５年から１０年を想定している。<br>・社会動向がめざましい時代において、20～30 年の計画期間は難しいのではないか。<br>第３次総合計画同様、第４次総合計画も 10 年間の計画として作業を進めたい。<br><br>②社会潮流について（外部要因）＜資料 9＞<br>・社会潮流の整理<br>全国的な社会潮流、千葉県総合計画における社会潮流（佐倉市関係部分）、第４次佐倉市総合計画で想定される社会潮流を列記。 |

| | |
|---|---|
| | ・少子高齢化、当面人口増だが最終的に人口減の方向性である。人口減少社会や税収減などが予想される。<br>・佐倉市の今後の課題をもって、第４次総合計画への課題設定としたい。（15 頁）<br>人口減少・少子高齢・多世帯社会、安全安心、グローバル化、情報通信技術の発展、生涯学習、地球環境、地方分権、若者を育てきれない社会、雇用環境、教育、自治体の政策能力、市民協働社会、社会資本の老朽化。 |
| | 質疑 |
| 委員 | 社会潮流について、13 項目が要素として含まれている。切り口で言えば、「⑫市民と行政が協働する社会」では地域の問題、NPO、企業をひとまとめにしているが、地域力を町全体に入れるというものと、企業のノウハウやコストパフォーマンスを取り入れるのは、性質が異なる。両者切り離し、それぞれをまちづくりの課題として整理する余地があるのではないか。<br>また、高齢化が進み、地域の担い手が不足する中、市民の役割分担と言っても地域ビジョンが見えにくい世の中でもある。「⑧ゆとり教育世代の生産年齢化（若者を育てきれない社会）」と課題設定されているが、若者の力を入れる方策はまだあるし、インターネット世代は感度が高く、地域と言うまとまりのなかで世代間を超えて結集する力にもなる。⑧はいささか否定的に過ぎる表現と思えるので、地域住民と市が協働していくという切り口にして、ポジティブな表現にしてはどうか。<br>企業との関係については、PPP（官民パートナーシップ）の概念が浸透してきてはいるが、地域によってもとらえ方が異なり、表面的に官民連携、公民連携と認識している場合もある。今後も行政改革は推進しなくてはならないが、民間の力を借りないと成果は上がらない。PFI（民間資金の活用により社会資本と公共サービスを提供する手法）や指定管理者も一巡して、そろそろ総括の時期を迎える。それを踏まえて民間連携の次のステップを見据えることが、次の総合計画には重要と考える。 |
| 委員 | 情報通信技術が進み、グローバル化が進んだ先には、社会が均質化へと向かう潮流があるのは間違いない。そこに、佐倉市の特色を打ち出すのが重要である。<br>資料 9 での課題抽出は資料 10「第 4 次総合計画策定にあたって」に続く重要な流れであるが、社会のグローバル化のなかで、佐倉がどう歴史文化、自然の豊かさを打ち出せるかが課題設定に見当たらない。総合計画に佐倉の良さを表現できてこそ、将来につなげることができる。 |
| 委員 | 同感である。②安全安心、⑤価値観の多様化、⑥地球環境の危機は、現在注目されている社会潮流だが、それを指摘するだけでなく、克服していくための項目設定をせねば、目指すべき将来につながらない。<br>地域の活力を佐倉がどこに注力していくか。まちづくりの基本姿勢のなかに、歴史・自然・文化を課題設定に位置づける必要がある。現在の基本課題は画一的すぎて、佐倉市独自色が足らないため、どこに活路を見出していくかの課題を表記されたい。 |
| 委員 | 資料 9 の①「多世帯社会」とは、何を表現しているのか。 |
| 事務局 | 2007 年以降、全国的に単独世帯が複数世帯を上回っており、今後もその傾向は進むと予測される。人口は減って、世帯は増えるなかで、コミュニティとしてどう対応すべきかを提言したい。 |
| 委員 | 世帯が多様化することは十分考えられる。例えば、直接的な血縁関係でなくても共同生活をするとか。それは、社会福祉を考える上でも重要な要素だ。しかし、対策を立てたとしても、社会の潮流として少子化は止まらない可能性もある。結婚しない若い世代の単独世帯が増えることも想定され、その点、多世帯が増えると言える。そうすると、戦後作られた社会保障制度が社会構造に対応できず、社会保障の理念が先行してサービスの提供は達せられない状況に陥り、制度のほころびが出る。だから、①「安心安全」の項目に、「心穏やかに子育て、障害者も一緒に」という視点がほしい。 |

| | |
|---|---|
| | また、⑧「ゆとり世代」⑩「教育・家庭環境の変化」のとらえかたは、ポジティブに可能性を見出して設定してほしい。どういう風に可能性をとらえるかが論点となる。<br>さらに、⑬「社会資本の老朽化」について、ファシリティマネジメントは大きな課題だろうが、市の施設は多種多様であり、対応が可能なのか。この切り口でいいのか。 |
| 事務局 | ファシリティマネジメントについては、公共建築物の有効活用や、土木部門におけるアセットマネジメントが中心となる。例えば下水道施設も老朽化しているが、撤去・入替では非常に財政負担が増える。そこで、ファシリティマネジメントだけでなく、長寿命化と維持管理という視点もいれていくことになる。<br>資料 9 の課題設定については、全般的に整理する予定である。世界の課題、日本全体の課題、その影響が及ぶ佐倉市の課題と分けて整理し、文言整理もする。 |
| 委員長 | 経済の活性化なくしては社会変革に距離感が生まれる。財政の問題からすべてが始まるという視点を取り入れていただくと、計画の道筋が見えてくる。 |
| 委員 | 基本課題が先にあり、その解決手段の設定とすると、視点がネガティブになる。前回の審議会では、戦略的に総合計画を立てるとあった。人口減少は逃れられないが、見方によっては成熟社会と言える。持続可能社会であり、成熟社会を佐倉らしく運営するという視点で、課題を整理していけばいいのではないか。 |
| 委員 | 全体的なとらえかたとしては、市民目線では、課題設定とは道しるべ的なものだと考える。課題設定のみでなく、ではどうするのかという具体的な対策へのつっこみが欲しい。施策実施には予算が必要である一方で、税収は減る。どういう税収対策を市が持っているかも具体的に加えてほしい。 |
| 委員長 | 具体的な意見があったため、事務局で新たな課題を作成してほしい。 |
| | ＜説明＞<br>③めざすべき将来の姿＜資料 10＞ |
| 事務局 | 第３次総合計画、第４次総合計画策定で既に抽出されている「将来の姿」を分類。<br>(1 頁)第３次総合計画における将来の姿。<br>（2 頁）第４次総合計画のキーワードの抽出。<br>（3 頁）第４次総合計画のキーワードを、第３次総合計画の 6 本の柱にあてはめたもの。<br>・少子高齢化対策を、全分野にあてはめてやっていくことになる。 |
| | 質疑 |
| 委員 | 3 頁、産業経済は大きくピーアールしてはどうか。市の事業はピーアールが不足している、またはピーアールの効果が出ていないと、市民意見にも出ていた。また、計画期間は 10 年とのことだが、県は今年から 10 年間の総合計画を立てた。災害対策など、県や近隣市町村と協力していくこともあるだろうから、例えば、県の総合計画期間に合わせて、佐倉市の総合計画の期間を 9 年にするのを検討する余地はあるか。 |
| 事務局 | 総合計画は県に合わせることは重要ではないため、計画期間を揃えることを想定していない。広域行政は、第 3 次総合計画で言えば 6 章のなかに位置づけているが、次期計画でも同じように計画内に位置づけていくことになるだろう。 |
| 委員 | 3 頁の 6 本の柱について。福祉・コミュニティ・安全については、スローガン的に、佐倉市個別の提案をしていったほうがいい。現状では、まちづくりというコンセプトがあまり見えてこない。<br>例えば、新町通りについては電線の地中化が始まっているが、フラット化し景観も良くなると予想される。そこで、地中化以降の景観をどのように保全し、活性化していくかが、具体的に計画に示されていくと佐倉市らしさが打ち出せる。<br>また、京成佐倉駅北口はバリアフリー化されていない。ミレニアムセンターが閉まってしまえばエレベーターも使えない。他の駅はバリアフリー化されているので、京成佐 |

| | |
|---|---|
| | 倉駅北口も城下町の表玄関らしさを打ち出しつつ、経費がかからないようにバリアフリー施設を設置されてはどうか。<br>さらに、外国人に関しては、アイスランドの噴火による相次ぐ国際便の欠航時に、成田市では炊き出しを実施した。そのような支援に、佐倉も参加してはどうか。例えば一番数が多い中国人などに対象を絞れば、実施可能になるのではないか。 |
| 委員 | 第３次総合計画と第４次総合計画の将来の姿を比較して、一番異なる点、力点はどこか。全国画一の将来像に思え、佐倉市独自の将来像とは第三者からはわかりにくい。佐倉の地域資源などが盛り込まれているわけでもない。 |
| 事務局 | 総合計画は３層構造であり、城下町の景観等の具体的な施策については実施計画部分で盛り込みたい。総合計画は全市に関わるものため、基本構想の段階では総花的にならざるをえない性質もある。佐倉市らしさを打ち出すように、実施計画を整理していきたい。 |
| 委員 | 佐倉の基本課題として、市民が安全で暮らしやすい社会、自然共生社会、地域活性化と様々に挙げられている。しかし、どういう思想にもとづいてまちを活性化していくかという総合計画の策定に際し、佐倉の自然・文化・歴史こそに重点を置くべきではないか。地域社会でも、子どもたちが佐倉を学ぶことで、人口減少や地域への愛着を解決していける。基本構想のなかでどこかにうたわないと、実施計画の段階での対応ではぶれていくものだ。 |
| 事務局 | 地域特性を、基本構想に盛り込めるよう整理したい。3 頁の将来像はまだ策定段階であり、今後大きく変更する可能性がある。さらに、キャッチコピーが入ってくることになる。第３次総合計画のキャッチコピーは「歴史・自然・文化のまち佐倉」だが、第４次総合計画は未定である。 |
| 委員 | 基本構想の将来像の区分は、その後の基本計画、実施計画に影響するのだろう。枠組み自体も整理して、担当所属が何課だと見えるようにしたほうが、佐倉らしさが表現できる。佐倉は、駅周辺の市街化地域と田園地域が隣接する珍しい都市だ。都市と農村、まちづくりと里づくりをどう連動させるか、その連関が総合計画に表れるといい。例えば、畔田で体を動かすことが健康教育にもつながる等。市民が伝統文化にどう参加するかによって、次の世代への道も開ける。 |
| 委員 | 総合計画が分野別の計画の寄せ集めになるのは一般的であり、既存の計画の棚卸作業につながるものだと考えると良い。ただし、演繹的に戦略をもっと考えていく必要があり、分野別の計画を集めた帰納的なやり方だけでは不十分である。<br>両者の折衷案としては、このまちがどうありたいかを、もっと練ることだ。第３次総合計画のキャッチフレーズ「歴史・自然・文化」は、それが佐倉にとって重要な資源だからつけられたのだろう。しかし、佐倉が生き残っていくためには、その資源をどう使っていくかが、将来像に含まれていないといけない。歴史・自然・文化が存在するだけではなく、戦略的にその資源をどう使っていくかをもう一度、演繹的に審議会で練る必要があるのではないか。一方で、帰納的に施策を積み上げるのは、事務局の役目である。帰納法だけでは戦略にならないので、戦略部分は重点プロジェクトとして、分野横断的にぶらさげていくのが望ましい。 |
| 委員長 | 同感だ。堀田正睦が佐倉で蟄居の折、財政がひっ迫していながらも、教育・産業おこしを推進した。結果、佐倉は千葉県をリードしていった。その姿勢を学ぶ必要があるだろう。 |
| 副委員長 | 基本課題について。市民にとっての課題は何かを考えると、税収減で財政がひっ迫している、シャッター通りをどうするのか、このさき人口減少、高齢化が予想され、現在でも南部地区ではこの現象がみられる等が挙げられる。それはどれも、佐倉市の課題と言える。どうしたら解決できるかと言えば、極端な言い方をすると、歴史・自然・文化に対し、金を落とすという手段は考えられないか。<br>また、教育問題について。国でも数年前から課題として取り入れているが、シチズン |

| | |
|---|---|
| | シップ、クレーマー問題、モンスターペアレンツ等を佐倉市で率先して総合計画に含めてはどうか。計画にシチズンシップ教育を位置づけても良い。そして、課題として、地縁血縁社会、孤独死の問題、無縁社会など現代的で刺激的な言葉を入れてはどうか。<br>さらに、佐倉は消費者生活センターの体制が充実しており、中核市並みに予算を割いている。市民が駆け込める支援体制が整えられていることを、安心安全社会にからんで宣伝しつつ、基本課題としていってはどうか。<br>全般的に、施策の優先順位がどこにあるのかがよく見えない。全体に目配りするのは大事だが、優先順位の視点が全体的に重要である。 |
| 委員長 | 基本構想には付帯条項を加えるのもひとつの方向と考える。次回は、今回の意見を踏まえた資料を提出されたい。 |
| | ＜説明＞ |
| 事務局 | ④市民意見募集結果まとめ＜資料 11＞<br>・平成 21 年 10～12 月実施、市民から市政への意見をもらった。<br>・福祉系施策や戦略的な施策を求める意見が多かった。<br>（2 頁）最多意見は、安心安全に関する意見。<br>（3 頁）2 番目に多い意見は、佐倉の強み、特性を活かす施策（歴史・自然・文化資源のピーアールや地域ブランド化）を求める意見。<br>（5 頁）都市基盤に対する意見。城下町の景観や、分散している都市構造（都市＆農村）、それを補完する公共交通の整備等。<br>（6 頁）市民協働、産業振興に対する意見<br>（7 頁）行財政運営、地球温暖化・環境に対する意見 |
| | 質疑 |
| 委員長 | 意見がないため、次回に意見をもらう資料とさせていただく。 |
| | 全般に対する意見交換 |
| 委員 | 総合計画を策定するにあたっては、問題意識を持つ市民の方と一緒に策定していくという姿勢が望ましい。したがって、綺麗に一般な言葉がつづられた総合計画ではなく、策定までの議論のプロセスが効果的に伝わるよう、市民の共感が得られる表現に工夫した総合計画を作っていきたい。 |
| 委員 | この総合計画審議会は、住んでいる佐倉について考えるいい機会だととらえている。傍聴も大いに受け入れ、この議論のプロセスを広く市民に伝えると、より生き生きした計画になると考える。 |
| 委員 | 佐倉市独自の総合計画を目指すのが大事と認識している。まちづくり資産とは、印旛沼、川等の自然のことだ。市民意見募集結果に印旛沼が挙げられるように、総合計画の内容にも欠かすことができないもののはずだから、地域の資源を総合計画の記述にも含めてほしい。<br>また、成田市との連携で国際化をめざすなど、関係市町村との連携も含められたい。 |
| 委員 | 佐倉市の特徴は、外部から見ると豊富であり、それをわかりやすく計画に盛り込むのが重要と考える。佐倉市民は自然を愛している人が多い。自分が選んで住んだ場所が終の棲家となるよう、障害があり、年をとっても、住みやすいまちとする計画にしてほしい。市民意見についてもレベルが高く、計画に反映してほしい。 |
| 委員 | 市民意見がもっとも高いのは、安心安全に関するもの。防犯の問題を見直してほしい。 |
| 委員 | 佐倉市は、近隣市町村との連携を考えないと孤立する状況である。総合計画は１次、２次、３次と策定され、その延長に第４次があるはずだが、事務局案には目新しいものが見えない。市の重点施策として、これをやるという目玉事業を盛り込んでほしい。 |

| | |
|---|---|
| | いい環境があれば人は必ず住む。回遊できる道路を必ず整備する等、目標を設定し、それを宣伝していくべきだ。また、長い計画期間で志がすたれないよう、市の音頭がとれる施策を盛り込んでほしい。 |
| 委員 | 市長から審議会に諮問されているはずだが、審議会の現状は、企画政策部とやりとりしているようなものだ。事務局に意見を作ってもらうのではなく、我々が提言を作成してはどうか。事務局はあくまでお膳立てをしてもらい、審議会が作成したものを市長に提言するという手続きが欲しい。 |
| 委員 | 51%の市民が、安心安全に関心があると回答している。人口が減少し、価値観が多様化０している。昔に比べると、隣人愛、家族愛が減ったと言える。ともに市民が支え合い生きるという姿勢を、総合計画に付け加えていただきたい。総合計画には、心の問題が触れられていない。行政とは最後は心の問題に帰着し、それは市民の生き方につながるものと考える。 |
| 副委員長 | 市民感覚で言えば、いい資源を佐倉市はたくさん持っているのに、歳入にしないのかという気持ちになる。市外から見ても魅力あるまちづくりにしたい。総合計画審議会に参加して、うまくいくような予感がしている。 |
| 委員長 | 本日は貴重な意見をもらった。商工会議所と行政は連携することが多いが、近隣市町村との連携でいえば、成田・佐原ががっちり協働しており、県からの補助でのハード整備も進んでいる。佐倉は後手にまわっている感が否めず、商工会議所としても協力していきたい。例えば、佐倉藩校の卒業生同士でも、市を超えて協力していけるのではないか。<br>文化の創造、新たな佐倉市をつくりあげる気概を改めて持って、審議会を進めていければいいと考える。１年間恰好をつけることなく、意味のある審議をしていきたい。 |